

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	令和5年6月28日
【事業年度】	第59期(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
【会社名】	美々津観光開発株式会社
【英訳名】	MIMITSU KANKO KAIHATSU CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 清本邦夫
【本店の所在の場所】	宮崎県日向市東郷町山陰甲417番地94
【電話番号】	(0982)58 - 1140
【事務連絡者氏名】	副支配人 植野 太
【最寄りの連絡場所】	宮崎県日向市東郷町山陰甲417番地94
【電話番号】	(0982)58 - 1140
【事務連絡者氏名】	副支配人 植野 太
【縦覧に供する場所】	該当事項ありません

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等の推移

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成31年 3月31日	令和2年 3月31日	令和3年 3月31日	令和4年 3月31日	令和5年 3月31日
売上高 (千円)	357,231	356,768	356,265	340,450	357,176
経常利益 (千円)	24,288	36,323	37,951	24,041	34,135
当期純利益 (千円)	18,725	28,124	31,243	18,724	26,150
資本金 (千円)	295,000	295,000	295,000	295,000	295,000
発行済株式総数 (株)	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900
純資産額 (千円)	214,053	242,178	273,422	292,146	318,296
総資産額 (千円)	1,081,947	1,090,227	1,111,702	1,101,363	1,118,012
1株当たり純資産額 (円)	36,280.30	41,047.21	46,342.77	49,516.38	53,948.54
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1株当たり当期純利益 (円)	3,173.87	4,766.92	5,295.55	3,173.61	4,432.15
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	19.8	22.2	24.6	26.5	28.5
自己資本利益率 (%)	8.7	11.61	11.42	6.41	8.22
株価収益率 (倍)					
配当性向 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	34,878	39,563	61,657	25,680	39,058
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	14,648	40,798	19,749	14,351	9,923
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	9,300	13,400	15,400	14,400	13,400
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	104,630	89,994	116,503	113,432	129,167
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	44 (12)	42 (15)	45 (15)	42 (13)	42 (13)

- (注) 1 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 3 株主総利回り、最高株価、最低株価、株価収益率について、当社は非上場のため、記載しておりません。

2 【沿革】

昭和39年11月	東臼杵郡(現日向市)東郷町大字山陰甲417番地94 美々津観光開発株式会社を設立 資本金25,000千円
昭和41年2月	資本金100,000千円に増資
昭和41年11月	9ホール開設
昭和41年12月	資本金200,000千円に増資
昭和42年7月	18ホール開設完了
昭和42年11月	資本金250,000千円に増資
昭和45年5月	資本金295,000千円に増資
昭和49年11月	預託金制会員募集(1口1,000千円 200名)
昭和49年12月	貯水槽増設
昭和51年6月	コース改造
昭和54年9月	預託金制会員募集(1口1,000千円 140名)
昭和61年6月	預託金制会員募集(1口1,500千円 50名)
昭和63年6月	全18ホール2グリーンに改造
平成5年3月	クラブハウス増改築
平成5年5月	預託金制会員募集(1口4,800千円 23名)
平成9年3月	全18ホール1グリーンに改造
平成9年4月	電磁式乗用カート導入
平成11年12月	打ちっ放し練習場新設
平成12年5月	美々津ゴルフ食堂(有)出資者持分追加買収にて100%の子会社とする
平成13年10月	9月に美々津ゴルフ食堂(有)を解散し、10月より食堂部門を美々津観光開発株式会社に統合
平成15年3月	砂置場倉庫新設
平成21年5月	セルフプレー、薄暮プレー開始
平成26年9月	広告用乗用カート導入
平成31年3月	ショップ増改築
令和元年9月	カートナビ導入
令和元年12月	コース管理棟増改築

3 【事業の内容】

当社は、ゴルフ場、レストラン及び売店として事業活動を行っております。

4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

令和5年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
42 [13]	55	9.9	2,684

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 当社の事業は18ホールのゴルフ場を運営する単一セグメントであります。従って、セグメント情報の記載項目はありません。

(2) 労働組合の状況

昭和59年3月26日キャディのみによる労働組合が結成され、ゼンセン同盟に属しております。
組合員数は、8人でユニオンシップ制であります。なお、労使関係は安定しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1)経営方針・経営戦略等

当社は、“お客様に喜んでいただける ゴルフ場を目指そう！”との社長方針のもと、

- ・質の高いコースコンディション
- ・心のこもったサービス
- ・コロナウイルスやその他の感染症対策

の提供を従業員一同、心がけております。

ゴルファーの高齢化及び若者のゴルフ離れ等の要因によりゴルフ人口の減少は避けては通れない問題であり、若者・女性ゴルファーの集客拡大が今後の大きな課題と言えます。他のゴルフ場との差別化を図り、より多くのゴルファーに足を運んでもらえるよう工夫を続ける所存であります。

また、ジュニアゴルファーの育成は長期的な戦略と捉え、ジュニアゴルフ教室やジュニアゴルフ大会を実施し、より多くの方々に周知していただけるよう営業活動にも力を入れてまいります。

(2)目標とする経営指標

年間4万人以上を目標来場者数としております。

(3)経営環境及び対処すべき課題

昨今の物価高騰、ゴルフ人口の減少など当ゴルフ場においても厳しい状況が続いておりますが安心安全にゴルフを楽しんでいただけるよう、ゴルフコースはもちろん、付帯設備のメンテナンス、従業員教育に注力致します。また地域への貢献と組織成員および家族の幸せを目指すものであります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社は、サステナビリティ方針として2022年11月にSDGs宣言を行っており、企業活動を通じて社会的課題の解決に取り組み、地域と共に成長し続ける企業づくりを目指してまいります。

(1)ガバナンス

当社は定期的取締役会を開催し、経営方針・運営に関する重要事項を審議し決定しています。会社の人的規模が小さいため、社外取締役は選任しておりませんが経営に対する監督機能と客観性を担保するため、非同族関係者から取締役を選任しております。取締役には経営者としての十分な経験を持つ人物を選定しており、多角的な観点から助言を行っています。

(2)戦略

環境に配慮した製品・サービスの提供

省エネ・省資源を推進することで、環境の保護と両立できる事業活動を積極的に行い、地域の自然環境保全に貢献してまいります。

働きがいのある仕事

すべての労働者の権利を守り、安全安心な労働環境を促進していきます。併せてすべての従業員がやりがいをもって働くことができる職場環境づくりを進めてまいります。

地域への貢献

各種ゴルフイベントの開催や地元人材の積極的な採用を通して、地域に根差したゴルフ場として、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

人材の育成及び社内環境整備に関する方針

人材育成の一環として従業員のスキルアップを図るため資格取得時のバックアップを推進してまいります。また、雇用管理の改善等に関する事項に係る相談窓口を設け、担当職員を配置しております。

(3)リスク管理

社内安全衛生委員会を設置し安全衛生管理者を中心に、月1回の会議を行い各部署からのリスクを把握し、情報

の共有・リスクに対応するべき施策の構築を行っております。

(4) 指標及び目標

当社ではサステナビリティ方針としてSDGs宣言を行っており、SDGsを指標としております。

3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、以下における将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 人的努力では解決できない来場者の変動リスク

- ・ 荒天、又は夏季の高温期を起因とする来場者の減少
- ・ 新型コロナウイルスその他の感染症拡大を起因とする来場者の減少
- ・ 天候不順によるグリーン芝生育不良を起因とする来場者の減少

(2) 会員権相場の変動リスク

当社はメンバー制ゴルフ場として、株式会社会員と預託金会員の併用により、主な資金を調達しておりますが、景気低迷により会員権相場は一時期に較べ下落しております。

経営努力により諸々のサービスに努め、会員権相場の維持には十分留意しております。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の状況

資産は前期からの増減のうち、主たるものは機械装置の増加4,019千円であります。

負債合計は前期より、9,501千円減少しております。

当期末現在で繰越利益剰余金は 52,704千円となっており、純資産合計は318,296千円となっております。

純資産の前期からの増加はすべて当期純利益26,150千円によるものであります。

(2) 経営成績の状況

(事業全体の状況)

当事業年度は、新型コロナウイルス感染症第8波、天候不順の影響を大きく受け閉鎖やキャンセルが相次ぎ、当クラブの来場者数は、前年度に比べて121人減少の37,621人となり、大変厳しい経営環境が継続しております。

しかしながら、今期総売上高は前期比16,725千円増収の357,176千円、当期純利益は前期比7,425千円増益の26,150千円となりました。

売上高の内訳としては、ゴルフ部門が前期比11,678千円増収の288,657千円、食堂部門が5,048千円増収の68,519千円となっております。

引き続きゴルフ人口の減少や物価高騰など、ゴルフ業界には厳しい環境が続くと予想されますが、当クラブ独自の企画コンペ開催、県外客の誘致拡大など営業基盤の強化を行って参ります。加えて来場者の皆様への満足度アップを図る事で、リピーターを増やし収益確保を図っていく所存ですので、更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

(目標とする経営指標達成状況等)

当社は年間4万人以上を目標来場者数としておりましたが、上記理由により、前期比121人(0.3%)減少の37,621人となり、目標達成することができませんでした。

(生産、受注及び販売の状況)

収容能力

入場者の平均プレイラウンド実数による施設の収容能力

入場者実績による施設の収容能力

期間入場者数(A)	37,621人	当期実績
一人平均ラウンド数(B)	1.008R	
延ラウンド数(A×B)	37,922人	
収容能力	62,976人	営業日数 328日 1日の入場者数 192人
収容能力に対する比率	60.2%	

入場者実績

令和3年度

年月	期間	総日数	営業日数	入場者数					一日平均		
				メンバー		ビジター		計	メンバー	ビジター	計
	日	日	日	人	%	人	%	人	人	人	人
R3.4	1~30	30	30	1,137	37.5	1,899	62.5	3,036	37.9	63.3	109.4
5	1~31	31	31	1,387	42.7	1,865	57.3	3,252	44.7	60.2	111.7
6	1~30	30	29	1,145	37.7	1,891	62.3	3,036	39.5	65.2	106.1
7	1~31	31	29	1,102	38.4	1,771	61.6	2,873	38.0	61.1	73.0
8	1~31	31	31	933	41.0	1,340	59.0	2,273	30.1	43.2	96.7
9	1~30	30	27	1,163	39.4	1,789	60.6	2,952	43.1	66.3	99.1
10	1~31	31	30	1,318	36.6	2,279	63.4	3,597	43.9	76.0	112.2
11	1~30	30	30	1,269	35.3	2,322	64.7	3,591	42.3	77.4	114.1
12	1~31	31	30	1,250	35.1	2,315	64.9	3,565	41.7	77.2	124.2
R4.1	1~31	31	30	1,222	36.8	2,095	63.2	3,317	40.7	69.8	116.4
2	1~29	28	28	1,179	39.6	1,799	60.4	2,978	42.1	64.3	113.4
3	1~31	31	31	1,148	35.1	2,124	64.9	3,272	37.0	68.5	111.1
合計		365	356	14,253	37.8	23,489	62.2	37,742	40.0	66.0	106.0

令和4年度

年月	期間	総日数	営業日数	入場者数					一日平均		
				メンバー		ビジター		計	メンバー	ビジター	計
	日	日	日	人	%	人	%	人	人	人	人
R4.4	1～30	30	28	1,186	38.0	1,939	62.0	3,125	42.3	69.25	111.6
5	1～31	31	25	1,384	39.9	2,085	60.1	3,469	55.4	83.4	138.8
6	1～30	30	27	1,187	40.5	1,742	59.5	2,929	43.9	64.5	108.5
7	1～31	31	26	1,067	40.2	1,584	59.8	2,651	41.0	60.9	101.9
8	1～31	31	29	1,120	38.2	1,813	61.8	2,933	38.6	62.5	101.1
9	1～30	30	24	901	37.8	1,483	62.2	2,384	37.5	61.8	99.3
10	1～31	31	29	1,212	34.1	2,344	65.9	3,556	41.8	80.8	122.6
11	1～30	30	28	1,249	36.1	2,207	63.9	3,456	44.6	63.8	123.4
12	1～31	31	29	1,145	34.1	2,217	65.9	3,362	39.5	76.4	115.9
R5.1	1～31	31	28	1,238	37.0	2,111	63.0	3,349	119.6	75.4	119.6
2	1～29	28	25	1,079	35.7	1,944	64.3	3,023	43.2	77.7	120.9
3	1～31	31	30	1,188	35.1	2,196	64.9	3,384	39.6	73.2	112.8
合計		365	328	13,956	37.1	23,665	62.9	37,621	42.5	72.1	114.7

受注状況

特記事項はありません。

販売実績

売上状況

最近2事業年度実績による収入内訳

(単位：千円)

科目	第58期	令和3年4月1日	第59期	令和4年4月1日
		令和4年3月31日		令和5年3月31日
	金額		金額	
メンバーフィ		26,074		25,859
ビジターフィ		17,497		29,556
キャディーフィ		24,166		23,194
カートフィ		162,227		163,424
会費収入		14,352		16,117
売店収入		12,105		11,110
ロッカー使用料等収入		15,157		12,210
食堂売上高		63,472		68,519
その他		5,400		7,187
合計		340,450		357,176

(注) 上記金額には消費税は含まれておりません。

料金明細

利用者の負担金は次の通りです。

1. キャディ付き料金

(単位：円)

区分			18ホール	
グリーンフィ	M	全日	65歳以上	1,500
			65歳未満	1,000
	優待	平日		1,500
			祭・日・土	3,500
	V	平日		1,500
			祭・日・土	3,500
キャディーフィ (18ホールに付)				2,500
カートフィ	M			2,600
	V			5,000
	V	祭日土		6,200
グリーンフィラウンド増	M			300
	V	平日		300
	V	祭日土		2,000
ロッカーフィ	M	全日		250
			平日	300
	V	祭・日・土		300
会費	個人(年)			16,818
コース維持厚生費				490
協会振興費				30
ゴルフ利用税		65歳以上		160
		65歳未満		320

(注) M.....メンバー 優待.....大株主優待 V.....ビジター 消費税は含まず

2.セルフ料金

(単位：円)

区分			18ホール	
グリーンフィ	M	平日	1,500	
	V	平日	1,500	
		祭・日・土	3,500	
カートフィ(18ホールに付)			M	2,600
			平日	5,000
			祭日土	6,200
グリーンフィラウンド増			M	300
			V平日	300
			V祭日土	2,000
ロッカーフィ	M	平日	250	
	V	平日	300	
		祭・日・土	300	
コース維持厚生費			490	
協会振興費			30	
ゴルフ利用税			320	

(注) M.....メンバー V.....ビジター 消費税は含まず

3.薄暮料金

(単位：円)

区分			18ホール	9ホール
グリーンフィ	M	全日		750
	V	平日		750
		祭・日・土		1,750
カートフィ	M	全日		1,300
	V	平日		2,500
		祭・日・土		3,100
コース維持厚生費				240
ゴルフ利用税				160

(注) M.....メンバー V.....ビジター 消費税は含まず

(3) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・インフローはプラス、投資活動によるキャッシュ・インフローはマイナス、財務活動によるキャッシュ・インフローはマイナス、結果として前事業年度末に比べ資金は15,735千円増加し、当事業年度末の資金残高は129,167千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動の結果、資金は39,058千円でありました。これは前期に較べて、13,378千円の増加であります。主に営業収入の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動の結果、資金の減少は9,923千円でありました。これは主に設備の導入及び更新による資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動の結果、資金の減少は13,400千円となりました。この内訳は入会保証金の減少5,000千円、長期借入金の返済8,400千円によるものであります。

(資本の財源及び資金の流動性に係る情報)

当事業年度における資金状況は、前事業年度より15,735千円増加となりました。これは主に、年間25日間の定休日を設定したことによる経費支出の抑制と営業収入の増加によるものです。

(4) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。賞与引当金は前年度実績、及び支給予定の見積もりにより計上しておりますので、実績値は見積もりと異なる場合がありますが、その変動による経営成績への影響は僅少と考えます。また新型コロナウイルス感染症の会計上の見積りへの影響はありません。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当期中に重要な影響を及ぼす設備の売却、撤去等はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、以下のとおりであります。

令和5年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価格(千円)					従業員数 (人)	摘要
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積 千㎡)	その他	合計		
美々津観光開発株 (宮崎県日向市東郷町)	ゴルフ場	クラブハウス及び18ホールのコース	210,957	18,778	59,448 (846)	670,461	959,644	42	

アウトコース規模							
	全面積	グリーン面積	ラフ面積	ティ面積	フェアウェイ面積	最大長さ	最大巾員
1	31,855㎡	900㎡	21,425㎡	405㎡	9,125㎡	375m	72m
2	37,829	763	28,891	545	7,630	428	75
3	17,016	620	10,809	607	1,651	193	60
4	30,548	875	19,117	662	9,894	538	77
5	34,027	683	26,084	497	6,763	435	72
6	10,813	825	7,647	592	421	197	56
7	23,198	750	16,478	367	5,603	364	58
8	25,872	875	19,520	427	5,050	352	55
9	36,509	850	27,512	417	7,730	492	60
計	247,667	7,141	177,483	4,519	53,867	3,374	
インコース規模							
	全面積	グリーン面積	ラフ面積	ティ面積	フェアウェイ面積	最大長さ	最大巾員
10	40,553㎡	866㎡	34,291㎡	383㎡	5,013㎡	396m	78m
11	34,108	571	26,903	470	6,164	431	55
12	41,496	635	33,736	410	6,715	506	60
13	12,615	590	10,982	401	642	229	34
14	27,970	587	20,170	445	6,768	405	79
15	30,643	793	23,328	502	4,660	406	75
16	26,356	688	20,218	408	5,042	370	70
17	14,473	705	12,938	620	210	165	50
18	44,427	875	34,877	425	8,250	540	62
計	272,427	6,310	217,443	4,064	43,464	3,448	
合計	520,308	13,451	394,926	8,583	97,331	6,822	

付帯設備 パッティンググリーン(2ヶ所1,448㎡)

ゴルフクラブハウス		摘要
建築面積		食堂、女子ロッカー室、浴室、コンペルーム ロビー、事務室、ロッカー室、浴室、売店、キャディ室、スタート室
2階	991㎡	
1階	1,368㎡	
合計	2,359㎡	

OUT				IN			
HOLE	RT	BT	PAR	HOLE	RT	BT	PAR
1	361ヤード	374ヤード	4	10	369ヤード	381ヤード	4
2	408	420	4	11	388	419	4
3	172	188	3	12	493	507	5
4	513	533	5	13	196	227	3
5	412	431	4	14	374	389	4
6	162	191	3	15	381	405	4
7	352	359	4	16	352	361	4
8	337	349	4	17	151	163	3
9	461	475	5	18	508	528	5
計	3,178	3,320	36	計	3,212	3,380	36

(注) 1 上記は九州ゴルフ連盟査定によるものであります。
 2 昭和62年2月1日よりメートル表示からヤード表示に変更しました。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、今後営業能力に重要な影響を及ぼすような設備の新設除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000
計	8,000

【発行済株式】

種類	発行数		上場金融商品取引 所名又は登録認可 金融商品取引業協 会名	内容
	事業年度末現在 発行数(株) (令和5年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (令和5年6月28日)		
普通株式	5,900	同左	非上場 非登録	単元株制度を採用しておりま せん。
計	5,900	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
昭和45年5月1日	900	5,900	45,000	295,000		

(5) 【所有者別状況】

令和5年3月31日現在

区分	株式の状況							合計
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	
					個人以外	個人		
株主数(人)	2	4		142			727	875
所有株式数(株)	25	100		2,120			3,655	5,900
所有株式数の割合(%)	0.4	1.7		35.9			62	100

(6) 【大株主の状況】

令和5年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
旭化成株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目1番地2	500	8.5
清本鉄工株式会社	延岡市土々呂町6丁目1633	275	4.7
宮崎交通株式会社	宮崎市松山1丁目1番1号	140	2.4
医療法人 浩洋会	東臼杵郡門川町宮ヶ原4-80	60	1.0
高鍋信用金庫	児湯郡高鍋町大字北高鍋1347	40	0.7
宮前建設株式会社	日向市日知屋16749	35	0.6
第一糖業株式会社	日向市日知屋17371	35	0.6
株式会社 宮崎銀行	宮崎市橘通東4丁目59	30	0.5
医療法人 杏林会	日向市美々津町3870	30	0.5
株式会社三井	延岡市天下町1213番地495	30	0.5
富士シリシア化学株式会社	春日井市高蔵寺2丁目1846	25	0.4
旭有機材株式会社	延岡市中の瀬町2丁目5955番地	25	0.4
上田工業株式会社	延岡市古城町5丁目46	25	0.4
計	-	1,250	21.2

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

令和5年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,900	5,900	
単元未満株式			
発行済株式総数	5,900		
総株主の議決権		5,900	

【自己株式等】

令和5年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】
該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】
該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】
該当事項はありません。
- (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】
該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、メンバーシップ制のゴルフ場であり株主の大部分はメンバーであります。そこで、株主が快適に楽しめる充実した施設づくり、及びグリーンフィーを安価に提供することで利益還元を行い、配当は行わないことを基本方針としております。

当事業年度におきましては、カートフィーを1ラウンド当り2,600円(ビジターは5,000円)と安価に提供いたしました。

なお、当社の剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

企業統治に関する事項

当社は会社法上の非公開会社かつ中小会社に該当し、監査役制度を採用しております。会社の人的規模が小さいため、会社の重要事項の決定は取締役会および取締役会により委嘱された代表取締役たる社長の決定により通常運営しており、定期的に取締役会を開催し、最終的に株主総会により承認する形態を採っております。

会計監査については、当社の公認会計士は福邦男氏であり、公認会計士により監査意見表明のための審査を受けている旨の報告を受けております。

内部統制システム整備の状況

当社は会社法規定の各機関がその機能を発揮することにより内部統制の充実を図っている。また、会計取引の認識、測定、記録及び報告の正確性、資産・負債の保全・管理業務の執行状況については、支配人(代理人を含む)当社の取締役会に報告して内部統制システムが適正に機能する体制にしている。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、業務にかかるすべてのリスクについて適切に管理する体制の整備に取り組んでいる。リスクの共通認識を図るため当社の取締役会が中心となり、リスクの現状分析を行い、課題を明確にし、今後の対策について検討を行っている。

役員報酬の内容

当期の役員報酬は常勤取締役 清本邦夫に対する報酬のみで、他の役員は無報酬であります。

取締役の員数

当社の取締役は20名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性7名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	清本邦夫	昭和42年5月3日生	平成2年3月 平成6年1月 平成29年6月 令和2年6月	玉川大学農学部卒業 CaseWesternReserve大学経営学部卒業 清本鉄工株式会社代表取締役社長就任(現) 当社代表取締役社長就任	(注)1	0
取締役	中島崇	昭和45年2月14日生	平成6年3月 平成25年6月 令和2年6月	東海大学海洋学部卒業 東郷メディキット株式会社 代表取締役社長就任(現) 当社取締役就任	(注)1	0
取締役	末次稔	昭和37年3月2日生	昭和61年3月 令和3年4月 令和3年6月	九州工業大学大学院卒業 旭化成株式会社上席執行役員 兼延岡支社長就任(現) 当社取締役就任	(注)1	0
取締役	黒木繁人	昭和32年12月1日生	昭和55年3月 平成13年3月 平成26年6月	日本大学商学部卒業 旭建設株式会社代表取締役社長就任(現) 当社取締役就任	(注)1	0
取締役	梶井崇之	昭和37年8月29日生	昭和60年3月 平成6年8月 令和2年6月	芝浦工業大学工学部卒業 太陽工業株式会社代表取締役社長就任(現) 当社取締役就任	(注)1	5
監査役	竹嶋豊明	昭和38年8月31日生	昭和62年3月 平成30年6月 令和3年6月	東海大学政治経済学部卒業 株式会社宮崎銀行執行役員 延岡営業部長就任(現) 当社監査役就任	(注)3	0
監査役	永野鎮	昭和45年8月3日生	平成7年3月 令和3年7月 令和4年6月	神戸学院大学経済学部卒業 株式会社宮崎太陽銀行延岡支店長就任(現) 当社監査役就任	(注)2	0
計						5

- (注) 1 取締役の任期は、令和5年3月期に係る定時株主総会終結の時から令和7年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2 監査役の任期は、令和2年3月期に係る定時株主総会終結の時から令和6年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役の任期は、令和3年3月期に係る定期株主総会から令和6年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

社外役員の状況

会社の人的規模が小さいため、社外取締役を選任しておりませんが、それに代わり、非同族関係者から取締役・監査役を選任しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

< 監査役監査の組織、人員及び手続き >

監査役2名から構成され、監査役間での役割分担により監査手続きを実施しています。

< 監査役及び監査役会の活動状況（開催頻度、主な検討事項、個々の監査役の出席状況及び常勤監査役の活動等） >

当事業年度において当社は監査役会を年1回開催しており、個々の監査役の状況については次のとおりである。

氏名	開催回数	出席回数
竹嶋 豊明	1	1
永野 鎮	1	1

監査役会における主な検討事項は、業務の適正・適法性である。

また監査役の活動として、各種書類の閲覧や担当者へのヒアリングを通して、規定に準拠した統制が図られているかを監査することにあります。

内部監査の状況

当社は、職員数50名前後の小規模の会社であるため、内部監査組織を整備することは、人的な制約があり、監査役が必要に応じて取締役会に出席するほか、管理職からの意見聴取、資料の閲覧等により、その業務を実施しております。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は福邦男氏であり、継続監査期間3年間であります。

(監査報酬の内容等)

(監査公認会計士等に対する報酬の内容)

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(円)	非監査業務に基づく報酬(円)	監査証明業務に基づく報酬(円)	非監査業務に基づく報酬(円)
600,000		600,000	

(その他重要な報酬の内容)

前事業年度及び当事業年度とも、該当事項はありません。

(監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容)

前事業年度及び当事業年度とも、該当事項はありません。

(監査公認会計士の選定方針と理由)

前事業年度及び当事業年度とも、特に定めておりません。

(監査報酬の決定方針)

前事業年度及び当事業年度とも、特に定めておりません。

(4) 【役員の報酬等】

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)の財務諸表については、公認会計士福邦男氏により監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当事業年度 (令和5年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	113,432	129,167
売掛金	*2 7,988	*2 8,541
商品	4,421	5,763
貯蔵品	2,632	2,212
その他	2,279	1,855
流動資産合計	130,752	147,538
固定資産		
有形固定資産		
建物	781,091	784,218
減価償却累計額	578,791	587,772
建物(純額)	202,300	196,446
構築物	244,174	248,130
減価償却累計額	232,230	233,619
構築物(純額)	11,944	14,511
機械及び装置	52,609	58,970
減価償却累計額	46,159	48,500
機械及び装置(純額)	6,450	10,470
車両運搬具	61,482	65,503
減価償却累計額	54,074	57,194
車両運搬具(純額)	7,408	8,309
工具、器具及び備品	93,931	97,358
減価償却累計額	86,461	90,149
工具、器具及び備品(純額)	7,470	7,210
土地	59,448	59,448
植樹	36,511	36,250
コース造成費	620,334	620,334
有形固定資産合計	*1 951,867	*1 952,978
無形固定資産		
電話加入権	554	554
ソフトウェア	3,310	6,667
無形固定資産合計	3,864	7,221
投資その他の資産		
投資有価証券	200	200
出資金	231	231
造林勘定	9,619	9,619
差入保証金	40	40
保険積立金	4,789	184
投資その他の資産合計	14,879	10,274
固定資産合計	970,611	970,474
資産合計	1,101,363	1,118,012

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当事業年度 (令和5年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,599	3,075
短期借入金	*1 270,000	*1 270,000
1年内返済予定の長期借入金	*1 8,400	*1 8,400
未払金	12,421	16,100
未払費用	7,190	7,516
未払法人税等	2,189	6,020
未払消費税等	4,276	5,356
預り金	9,890	7,887
前受収益	15,349	16,752
賞与引当金	6,007	6,320
流動負債合計	338,321	347,426
固定負債		
長期借入金	32,150	23,750
退職給付引当金	19,042	13,473
入会保証金	94,725	95,225
会員保証金	313,400	308,400
長期前受収益	11,577	11,441
固定負債合計	470,895	452,289
負債合計	809,217	799,715
純資産の部		
株主資本		
資本金	295,000	295,000
利益剰余金		
利益準備金	5,000	5,000
その他利益剰余金		
別途積立金	71,000	71,000
繰越利益剰余金	78,853	52,704
利益剰余金合計	2,853	23,296
株主資本合計	292,146	318,296
純資産合計	292,146	318,296
負債純資産合計	1,101,363	1,118,012

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
売上高		
ゴルフ収入	245,121	256,229
会費収入	14,352	16,117
商品売上高	12,105	11,110
受取手数料	5,400	5,200
食堂売上高	63,472	68,520
売上高合計	340,450	357,176
売上原価		
商品期首棚卸高	5,509	4,421
当期商品仕入高	26,816	31,035
小計	32,325	35,456
商品期末棚卸高	4,421	5,763
商品売上原価	27,904	29,693
売上総利益	312,546	327,483
販売費及び一般管理費		
役員報酬	1,200	1,200
給料	112,956	113,408
従業員賞与	15,732	16,493
賞与引当金繰入額	647	313
退職給付費用	601	1,502
福利厚生費	19,248	20,845
競技費	29,574	32,063
事務所費	23,579	25,287
修繕費	15,388	12,152
租税公課	13,440	12,844
減価償却費	21,064	21,360
コース維持費	19,250	21,742
雑費	*1 17,255	*1 17,196
販売費及び一般管理費合計	289,934	296,405
営業利益	22,612	31,078
営業外収益		
受取利息	4	19
雑収入	7,046	8,411
営業外収益合計	7,050	8,430
営業外費用		
支払利息	5,621	5,372
営業外費用合計	5,621	5,372
経常利益	24,041	34,136
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	*3 503	*3 261
特別損失合計	503	261
税引前当期純利益	23,538	33,875
法人税、住民税及び事業税	4,814	7,725
当期純利益	18,724	26,150

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				株主資本合計	純資産合計	
	資本金	利益剰余金		繰越利益剰余金			
		利益準備金	その他利益剰余金				
			別途積立金				繰越利益剰余金
当期首残高	295,000	5,000	71,000	97,578	273,422	273,422	
当期変動額							
当期純利益				18,724	18,724	18,724	
当期変動額合計				18,724	18,724	18,724	
当期末残高	295,000	5,000	71,000	78,853	292,146	292,146	

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				株主資本合計	純資産合計	
	資本金	利益剰余金		繰越利益剰余金			
		利益準備金	その他利益剰余金				
			別途積立金				繰越利益剰余金
当期首残高	295,000	5,000	71,000	78,853	292,146	292,146	
当期変動額							
当期純利益				26,150	26,150	26,150	
当期変動額合計				26,150	26,150	26,150	
当期末残高	295,000	5,000	71,000	52,703	318,296	318,296	

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	340,495	356,622
商品・貯蔵品の仕入れによる支出	26,495	30,469
人件費の支出	129,889	131,931
その他の営業支出	143,915	144,295
小計	40,196	49,927
利息の支払額	5,621	5,371
法人税等の支払額	8,895	5,498
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,680	39,058
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	16,472	14,528
保険積立金の積立による支出	763	279
保険積立金の払戻による収入	2,884	4,884
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,351	9,923
財務活動によるキャッシュ・フロー		
会員預り金の返還による支出	6,000	5,000
長期借入金の返済による支出	8,400	8,400
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,400	13,400
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,071	15,735
現金及び現金同等物の期首残高	116,503	113,432
現金及び現金同等物の期末残高	113,432	129,167

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品

最終仕入原価法

貯蔵品

最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物及び構築物 5～50年

機械装置及び車両運搬具 2～10年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）……………定額法

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

5 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、普通預金、3ヶ月以内に期限の到来する定期預金からなっております。

6 収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額

で

収益を認識しております。プレー収入、レストラン収入等は顧客のゴルフ場利用又はレストラン利用等を履行義務

として認識し、顧客のゴルフ場利用又はレストラン利用等した時点で収益を認識しております。

会費収入は、会員の施設利用機会の提供を履行義務として認識し、当該履行義務は時の経過につれて充足されるため、履行義務の充足に係る合理的な期間を見積もり、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識しております。

(会計方針の変更)

1 収益認識に関する会計基準の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することと致しました。尚、当該会計方針の変更による影響はありません。

また、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、全事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

2 時価の算定に関する会計基準の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準

第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することと致しました。尚、財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことと致しました。ただし、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(令和2年3月6日内閣府令第9号)附則第3条第2項により、経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前事業年度に係るものについては記載しておりません。

(未適用の会計基準等)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

* 1 担保資産

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当事業年度 (令和5年3月31日)
建物	142,085千円(帳簿価格)	137,112千円(帳簿価格)
土地	443千円(帳簿価格)	443千円(帳簿価格)
計	142,528千円	137,555千円

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

上表は短期借入金270,000千円(1年内返済予定の長期借入金8,400千円)の担保に供している。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

上表は短期借入金270,000千円(1年内返済予定の長期借入金8,400千円)の担保に供している。

* 2 売掛金のうち顧客との契約から生じた債権の金額は以下の通りです。

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当事業年度 (令和5年3月31日)
売掛金	7,988千円	8,541千円

(損益計算書関係)

* 1 雑費の内訳

	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
賃借料	986千円	1,507千円
管理諸費	5,564	4,311
接待交際費	263	529
雑費	10,442	10,849
計	17,255	17,196

* 2 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
	千円	千円
計		

* 3 固定資産除却損の内訳

	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
山林・植林	79千円	261千円
構築物	424	
計	503	261

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数 (株)
普通株式	5,900			5,900

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数 (株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	5,900			5,900

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

* 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
現金及び預金勘定	113,432千円	129,167千円
現金及び現金同等物	113,432	129,167

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの)

該当事項なし

(2) リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース物件の取得価格相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(令和4年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(令和5年3月31日)

該当事項はありません。

未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当事業年度 (令和5年3月31日)
1年以内	千円	千円
1年超		
合計		

支払リース料及び減価償却費相当額

	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
支払リース料	千円	千円
減価償却費相当額		

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(金融商品関係)

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資及び短期的な運転資金を借入金で調達しております。また、一時的な余資は普通預金で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は回収期間は短期ですが、カード会社及び顧客の信用リスクがあります。営業債務である買掛金・未払金は短期の支払期日であります。借入金の多くは短期借入金であるため、新規借り換えを行う場合に金利が変動するリスクがあります。

(3) 金融商品に係る管理体制

営業債権については早めの回収につとめることにより、信用リスクを軽減する努力を行っております。

2 金融商品の時価等に関する事項

令和4年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、重要性の乏しいものについては、財務諸表等規則第8条の6の2但し書きの規定により記載を省略しております。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	113,432	113,432	0
(2)売掛金	7,988	7,988	0
資産計	121,420	121,420	0
(1)買掛金	2,599	2,599	0
(2)短期借入金	270,000	270,000	0
(3)未払金	12,421	12,421	0
(4)1年内返済予定の長期借入金	8,400	8,400	0
(5)長期借入金	32,150	32,150	0
負債計	325,570	325,570	0

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1)現金及び預金、並びに(2)売掛金

すべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから、時価は帳簿価格と同額になっております。

負債

(1)買掛金及び(3)未払金

すべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから、時価は帳簿価格と同額になっております。

(2)短期借入金、(4)1年内返済予定の長期借入金及び(5)長期借入金

新規に借り入れた場合の利率が現行の平均利率とほとんど変わらず、時価は帳簿価格と近似していることから、時価は帳簿価格と同額になっております。

3 金融商品の時価のレベルごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(単位：千円)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
売掛金		7,988		7,988
資産計		7,988		7,988
買掛金		2,599		2,599
短期借入金		270,000		270,000
未払金		12,421		12,421
1年内返済予定の長期借入金		8,400		8,400
長期借入金		32,150		32,150
負債計		325,570		320,570

(注2) 長期借入金の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
短期借入金	270,000	0	0	0	0
長期借入金	8,400	8,400	8,400	8,400	8,400

(注3) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
(1)入会保証金	94,725
(2)会員保証金	313,400
負債計	408,125

入会保証金、会員保証金は、会員からの預り保証金であり、いつ償還の請求がなされるかが明らかでないことから、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが極めて困難と認められるため時価の開示対象としておりません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資及び短期的な運転資金を借入金で調達しております。また、一時的な余資は普通預金で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は回収期間は短期ですが、カード会社及び顧客の信用リスクがあります。営業債務である買掛金・未払金は短期の支払期日であります。借入金の多くは短期借入金であるため、新規借り換えを行う場合に金利が変動するリスクがあります。

(3) 金融商品に係る管理体制

営業債権については早めの回収につとめることにより、信用リスクを軽減する努力を行っております。

2 金融商品の時価等に関する事項

令和5年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、重要性の乏しいものについては、財務諸表等規則第8条の6の2但し書きの規定により記載を省略しております。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	129,167	129,167	0
(2)売掛金	8,541	8,541	0
資産計	137,708	137,708	0
(1)買掛金	3,075	3,075	0
(2)短期借入金	270,000	270,000	0
(3)未払金	16,100	16,100	0
(4)1年内返済予定の長期借入金	8,400	8,400	0
(5)長期借入金	23,750	23,750	0
負債計	321,325	321,325	0

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1)現金及び預金、並びに(2)売掛金

すべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから、時価は帳簿価格と同額になっております。

負債

(1)買掛金及び(3)未払金

すべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから、時価は帳簿価格と同額になっております。

(2)短期借入金、(4)1年内返済予定の長期借入金及び(5)長期借入金

新規に借り入れた場合の利率が現行の平均利率とほとんど変わらず、時価は帳簿価格と近似していることから、時価は帳簿価格と同額になっております。

3 金融商品の時価のレベルごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(単位：千円)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
売掛金		8,541		8,541
資産計		8,541		8,541
買掛金		3,075		3,075
短期借入金		270,000		270,000
未払金		16,100		16,100
1年内返済予定の長期借入金		8,400		8,400
長期借入金		23,750		23,750
負債計		321,325		321,325

(注2) 長期借入金の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
短期借入金	270,000	0	0	0	0
長期借入金	8,400	8,400	8,400	8,400	8,400

(注3) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
(1)入会保証金	95,225
(2)会員保証金	308,400
負債計	403,625

入会保証金、会員保証金は、会員からの預り保証金であり、いつ償還の請求がなされるかが明らかでないことから、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが極めて困難と認められるため時価の開示対象としておりません。

(有価証券関係)

1 売買目的有価証券

前事業年度及び当事業年度とも、該当事項はありません。

2 満期保有目的の債券で時価のあるもの

前事業年度及び当事業年度とも、該当事項はありません。

3 その他有価証券で時価のあるもの

前事業年度及び当事業年度とも、該当事項はありません。

4 当事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度及び当事業年度とも、該当事項はありません。

5 時価評価されていない主な有価証券の内容

財務諸表等規則第8条の7第2項但し書の規定により、重要性が乏しいため、前事業年度及び当事業年度とも記載を省略しております。

6 その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

前事業年度及び当事業年度とも、該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の退職一時金制度を採用しております。なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	22,131 千円
退職給付費用	601 "
退職給付の支払額	3,689 "
制度への拠出額	"
<hr/>	
退職給付引当金の期末残高	19,042 "
<hr/>	
積立制度の退職給付債務	千円
年金資産	"
<hr/>	
非積立制度の退職給付債務	19,042 "
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	19,042 "
<hr/>	
退職給付引当金	19,042 "
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	19,042 "
<hr/>	

(2) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 601千円

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の退職一時金制度を採用しております。なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	19,042 千円
退職給付費用	1,502 "
退職給付の支払額	7,071 "
制度への拠出額	"
退職給付引当金の期末残高	13,473 "

積立制度の退職給付債務	千円
年金資産	"

非積立制度の退職給付債務	13,473 "
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	13,473 "

退職給付引当金	13,473 "
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	13,473 "

(2) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 1,502千円

(資産除去債務関係)

前事業年度(令和4年3月31日)

当社は、法令又は契約で要求されている法律的な義務が現在は見込まれていないため、資産除去債務を合理的に見積もることができず、資産除去債務は貸借対照表に計上していません。

当事業年度(令和5年3月31日)

当社は、法令又は契約で要求されている法律的な義務が現在は見込まれていないため、資産除去債務を合理的に見積もることができず、資産除去債務は貸借対照表に計上していません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

当社の事業は18ホールのゴルフ場を運営する単一セグメントであります。従って、セグメント情報の記載項目はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

当社の事業は18ホールのゴルフ場を運営する単一セグメントであります。従って、セグメント情報の記載項目はありません。

【関連情報】

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

当社は関連会社がありませんので、該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額は以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (令和4年3月31日)	当事業年度 (令和5年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	49,516.38円	53,948.54円

1株当たり当期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	当事業年度 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益	3,173.61円	4,432.15円
(算定上の基礎)		
当期純利益(千円)	18,724	26,149
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	18,724	26,149
期中平均株式数(株)	5,900	5,900

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券については、その金額が資産総額の100分の1以下であるため、「財務諸表等規則第124条」により記載を省略しました。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)	摘要
有形固定資産								
建物	781,092	3,126		784,218	587,772	8,980	196,446	
構築物	244,175	3,955		248,130	233,619	1,389	14,511	
機械及び装置	52,610	6,360		58,970	48,500	2,341	10,470	
車輛及び運搬具	61,483	4,020		65,503	57,194	3,120	8,309	
工具器具及び備品	93,931	3,427		97,358	90,149	3,687	7,209	
土地	59,448			59,448			59,448	
コース造成費	620,334			620,334			620,334	
植樹	36,511		261	36,250			36,250	
有形固定資産計	1,949,584	20,888	261	1,970,211	1,017,234	19,517	952,977	
無形固定資産								
電話加入権	554			554			554	
ソフトウェア	6,600	5,200		11,800	5,133	1,843	6,667	
無形固定資産計	7,154	5,200		12,354	5,133	1,843	7,221	

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	避雷針小屋補修工事	1,409千円
構築物	カート走行路整備	2,090千円
	滑落防止柵設置工事	900千円
車両運搬具	ターフライナー	3,720千円
器具備品	パソコン	2,389千円
ソフトウェア	ゴルフ場総合管理システム	5,000千円

2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

植樹	倒木	261千円
----	----	-------

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限	摘要
短期借入金	270,000	270,000	1.925		
1年以内に返済予定の長期借入金	8,400	8,400	1.925		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	32,150	23,750	1.925		
合計	310,550	302,150			

(注1) 長期借入金の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	8,400	8,400	8,400	8,400

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (円)	返済期限 (その他) (円)	当期末残高 (円)
賞与引当金	6,007	313	6,007	0	6,320

【資産除去債務明細表】

該当事項がないため、記載しておりません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(令和5年3月31日現在)における主な資産及び負債の内容は次のとおりであります。

現金及び預

内訳		金額(千円)	摘要
現金		3,445	
預金の種類	当座預金	2,005	
	普通預金	116,517	宮崎銀行日向支店 外
	定期預金	7200	
	小計	125,722	
合計		129,167	

売掛金

内訳	金額(千円)	内訳	金額(千円)
J・C・Bカード	2,971	その他	1,459
VISA	1,860		
U・Cカード	1,219		
K・Cカード	849		
D・Cカード	183	合計	8,541

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	当期末残高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
7,988	196,187	195,634	8,541	95.8	15.4

商品及び貯蔵品

内訳	金額(千円)	摘要
商品	5,763	ジュース、その他
貯蔵品	2,212	薬剤、肥料 外
合計	7,975	

造林勘定

内訳	金額(千円)	摘要
令和5年3月31日迄の造林費	9,619	杉 2町 7反 桧 19町 9反 2畝
合計	9,619	

入会保証金

内訳	金額(千円)	摘要
カントリークラブ保証金	95,225	延人員 987名
合計	95,225	

会員保証金

内訳	金額(千円)	摘要
会員保証金	308,400	会員券発行 100万円×213名、 150万円×27名 他
合計	308,400	

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで	定時株主総会	6月中
基準日	月 日		
株券の種類	1株券、4株券、5株券の3種類		
剰余金の配当の基準日	月 日	1単元の株式数	株
株式の名義書換	取扱場所	宮崎県日向市東郷町山陰甲417の94 美々津観光開発株式会社	
	代理人	該当なし	
	取次所	該当なし	
	名義書換手数料	通常 一般15万円	株券交付手数料
単元未満株式の買取り	取扱場所	該当なし	
	代理人	該当なし	
	取次所	該当なし	
	買取手数料	該当なし	
公告掲載新聞	宮崎日日新聞・夕刊デイリー		
株主に対する特典	5株につき1名分のカントリークラブ会員の資格を与える。		

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から、有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及び添付書類

事業年度 第58期(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)令和4年6月30日九州財務局長へ提出

(2) 半期報告書及び添付書類

第59期中(自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)令和4年12月27日九州財務局長へ提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

令和5年6月24日

美々津観光開発株式会社
取締役会 御中

福 邦男 公認会計士事務所

公認会計士 福 邦男

監査意見

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている美々津観光開発株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第59期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

私は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、美々津観光開発株式会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査人の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、私は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務保表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示が

ないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、あた、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を順守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的にはあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上